

-大学院歯学独立研究科-
第 81 回 中 間 発 表 会 プ ロ グ ラ ム

大学院学生等が、これまでの研究成果を発表します。
どなたでも聴講できますので、多数の参加をお待ちしております (聴講申込不要)

場 所：実習館2階 総合歯科医学研究所セミナー室
日 時：2016年4月20日(水) 17時15分 開会(中間発表1名)

2016年4月20日(水) 17時15分 開会

No.	発表区分・予定時間	演題名・発表者	審査委員
	17:15	開会挨拶 高橋研究科長	
1	[中間発表] 17:20~17:50 司会：音琴教授	「歯面処理に用いるエアアブレーション機器の影響に関する検討」 青柳 恵子 4年 健康増進口腔科学講座 口腔健康分析学	主査：吉成 教授 副査：川原 教授 田所 准教授

発表内容の要旨(課程博士)

Abstract of Presented Research (For the Doctoral Course)

学籍番号 Student ID No.	ID#G	入学年 Entrance Year	2013	年 Year
(ふりがな)	あお やぎ		けい こ	
氏名 Name in Full	青 柳		恵 子	
専攻分野 Major Field	健康増進口腔科学講座			
主指導教員 Chief Academic Advisor	音 琴		淳 一	
発表会区分 Type of Meeting	中間発表会 ・ 大学院研究科発表会 ・ 松本歯科大学学会 Midterm Meeting / Graduate school research meeting presentation / The Matsumoto Dental University Society			
演題名 / Title of Presentation				
歯面処理に用いるエアアブレーション機器の影響に関する検討				
発表要旨 / Abstract				
<p>緒言:保存治療において歯面に対するエアアブレーションは広く行われている。近年幅広く利用されるようになったグリシン粉末を利用するエアアブレーションを使用する際に、歯根面にどのような影響があるかどうかについて従来法との比較検討を行うこととしたので、その中間報告を行う。</p> <p>使用機器・材料および方法:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 抜去歯牙 矯正治療中に便宜抜歯した下顎第一小臼歯を通法どおり保存し、水平石膏台座に埋入固定し、実験に供した。 2) 使用機器: (1)EMS 社製(エアフローSII:AA群)歯面清掃機能と超音波スケーリング機能を有するものをエア圧 0.5MPaにて5秒、10秒噴射して使用した。 (2)超音波スケーラー(US群)ピエゾンチップAタイプを・5秒、10秒操作した。 3) 処置部位: CEJ根尖寄りセメント質を処置:US群/AA群を左右に分けて片側ずつ処置した 4) 分析方法:噴射後に水洗乾燥し、形状レーザー顕微鏡(LEXT・OLS3000:OLYMPUS)による非接触計測と表面形状の撮影をし、1試料につき表面粗さ(SRa)を10回計測した。 5) 統計学的分析:AA群は術前と処置後5秒、10秒を以前報告されているデータと比較した。またAA群とUS群、術前後、5秒、10秒後をそれぞれ対応あるStudent-t-test($p < 0.01$)を行った。 <p>結果:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1)AA群は噴射時間を長くするとセメント質面の粗さは増加したが、統計学的に有意差を認めなかった。AA群とUS群の比較では、噴射時間を長くすると表面粗さに差はあり、大きくなる傾向はあったが、統計学的に有意差を認めなかった。 2)AA群の表明性状観察写真ならびに噴射歯面の断層グラフにおいては術前と比較して5秒では術前の細かい表面波線が小さくなっていることが示された。10秒後では表面は小さい破線が消えてややうねりが大きいことを示唆する像を認めた。 <p>考察と以降の予定:セメント質に対するエアアブレーションによるグリシン粉末噴射により、面粗さは噴射時間増加に伴って増加した。また、表面粗さ曲線による分析では、処置前と比較して微細凹凸が減少しており、粉末のほぼ均一な噴射も示唆された。</p> <p>2016年3月に提出した「歯面に対する各種エアフローによる処置の影響」が受理されたので、以降、臨床における、各種機器ならびに条件下(時間の変化と回転器具における歯面研磨との比較)の検討結果を蓄積し、検証することにより、今回の基礎的検討結果と併せて総括していく予定である。</p>				